



# 身近な生命との関わり

～大切に育てる・触れ合う～

9月号 時保育園



『自然との関わり・生命尊重』これは、幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」の中の1つです。生き物への愛着を感じ、いたわり大切にする気持ちをもって関わるようになる。

時保育園の周りには、四季折々の自然が広がり、子どもたちは、日々の生活の中でたくさんの命と出会っています。草花や稲、野菜や生き物との触れ合いを通して、自然の恵みや生命の尊さを感じています。



## 【虫捕り】

◎旧時小学校校庭へ虫捕りに行きました。子どもたちは「いた！こっち！」「かわいいね」「にげちゃった！」と、いろいろな声をあげています。小さな命に出会うことで、『生きている』ということを見て触れて実感し、命を大切にする心が育っていることを感じます。



## 【ひまわり咲いたよ！】

◎昨年の青組さん（現1年生）から受け継いだひまわりの種がきれいな花を咲かせました。種を植えると1週間で芽が出てびっくり。芽が出る喜び、グングン伸びる様子、そして花が咲いた感動を通して、「すごいねえ」と、生命の不思議を感じています。



## 【ぼくの野菜できた！】

◎親子で植えた野菜の苗がグングン育ち、ついに収穫の時を迎えています。途中、なかなか大きくなりえずに心配したり、カラスに盗られて悔しがったりという気持ちも経験しました。無事に収穫できて本当に良かったです。自分たちで育てた野菜を手にした子どもたちは、とても誇らし気で、食べることが楽しくなり、自然の恵みが喜びに繋がりました。



## 【カブトムシ来園！】

◎卒園児の保護者から、カブトムシをいただきました。子どもたちは、蜜をなめる様子を真剣なまなざしで見たり、そっと手のひらに乗せて動く様子を観察したりしています。動くたびに、「くすぐったい」と笑いながらも、エサを入れ替えてお世話をしながら、その小さな命を大切にしようとする姿が印象的でした。生き物との出会いを通して、小さな命を思いやる心も育っています。

